

10年後、20年後の社会を見据えた

これからの

進路指導のあり方

少子高齢化、グローバル化、機械化・自動化など、社会の大きな変化を受け、教育改革や入試改革を始めとする教育環境の変化も加速している。

今後ますます激しく変化するであろう社会を生き抜いていく現在の生徒たちは、どのように自身の進路を考え、選択していけばよいのだろうか。その時、必要とされるのはどのような力なのか。

そして、教師はその力を生徒にどう育み、彼らを導いていけばよいのか。

今号は、10年後、20年後の社会を見据えた、これからの進路指導のあり方について考えていく。

Q. 今後の進路指導上、課題として認識していることを教えてください。

◎就きたい職業やなりたい自分を決めて、それを目指すという進路指導から、「未来が分からないからこそ、学力や人間力を高めよう」という指導への転換を意識している。社会の変化が激しいため、今、目指している職業に就ける人はわずかであり、だからこそ、今、学業や部活動などに真剣に取り組み、校内外で様々な体験をし、汎用的な力を身につけることの大切さを伝えたい。(千葉県)

◎あと15年もすれば、今ある職業の約半数が人工知能やロボットがすることに置き換わる時代が来ると予測されているが、その時に人間でなければできない職業を目指すのか、人工知能やロボットに対抗すればよいのか分からない。「生きる力」をどう解釈すればよいのか、現場の教師が答えに窮しているのが現状だ。(静岡県)

◎生徒の視野が狭く、社会とのかかわりの視点で進路を考える力が、年々低下していると感じる。その結果、文理選択や科目選択で責任を伴った判断ができず、ミスマッチを来すケースが見られる。それを指導する教師が、将来就きたい職業から進路を考えさせるという指導から抜け切れていないのも、それに拍車をかけている。(静岡県)

◎「なぜ、勉強するのか?」と「勉強ができる幸せ」を深く理解することが重要だと思う。理解されているようで理解されていない根本的事項と思われる。(香川県)

◎生徒の多様な進路希望、保護者の安全・安定志向など、進路指導を取り巻く環境は大きく変化しており、18歳時の進学指導ではなく、30代、40代を見据えた進学指導が難しくなってきている。(鹿児島県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは、2016年8月にウェブとファクスで実施）

本号のテーマ

これからの進路指導のあり方を考える

現在の生徒が生きる、今後10～20年間に
おいて予測される社会の変化の一例

現状把握【P.4～5】

- ◎2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くだろう。
ニューヨーク市立大学大学院センター教授 **キャシー・デビッドソン氏**
- ◎10～20年後に、日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能やロボットなどにより代替できるようになる可能性が高い。
株式会社野村総合研究所「国内601種の職業ごとのコンピューター技術による代替確率の試算」
- ◎日本の人口は、2030年に65歳以上の割合が総人口の3割に達する一方、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は総人口の約58%にまで減少。
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」

変化の激しい社会を生きる中で、よりよい進路選択をできるように
するためには、どのような力を、どのようにして育めばよいのか？

求められる力と進路指導のあり方

社会人が語る

【P.6～9】



「それまでの常識や価値観にとらわれず、『本当にそうなのか、そうでなければならないのか』と、自分や周囲に問いかけ、考え続ける」
株式会社カネカ 中原実香



「社会の変化によって、生き方・働き方を変えられるのではなく、変化を利用して、自ら生き方・働き方を変える」
ソニー株式会社 西川翔陽

教師が語る

【P.10～15】



「社会の変化が激しいこれからの時代は、ずっと学び続けることが求められる。『なぜ、学ぶのか』という問いに、本質的な答えを返せる生徒を育てる」
北海道旭川東高校 松井恵一



「生徒が学びの意味を見出すためには、他者貢献や社会貢献の視点を生徒に与えることも大切。その意識が、学び続ける上でのエンジンになる」
島根県・私立開星中学校・高校 浜屋陽



「授業を通じて、『なぜ、学ぶのか』『どう生きるのか』を生徒に深く考えさせるとともに、教師が生徒とじっくりと向き合う時間を確保する」
山口県立下関南高校 松村成通

各校の具体的な取り組み

実践事例1 北海道旭川東高校 【P.16～19】
自己の成長をデザインできる力を育むため、社会に開かれた学校に

実践事例2 島根県・私立開星中学校・高校 【P.20～23】
社会を変えられるという手応えが進路意識を豊かに醸成する

実践事例3 山口県立下関南高校 【P.24～27】
NIEや多様な言語活動を通して自身の将来や学ぶ意味を考究する